０６／１０／１５　　礼拝メッセージ　　岡田大輔　副牧師

主　　題：幸福に降服する９
聖書箇所：マタイの福音書　５章１０節

　私たちは皆、争いを避けて生きようと、そのように努めます。この中におられる皆さんの中で、だれひとり、私は争いをしたいと願っておられる方はいないでしょう。私は人との間にあって、問題をたくさん抱えて生きたいと考える人もいないでしょう。この世の中で、私たちはあらゆる努力をして、私たちが幸せに生きるために、何としても、どんなに小さな争い、問題であっても、それを排除しようと努め生きて行きます。それゆえに私たちは、私たちの人生においてこのような争いや問題、人間関係における様々な困難がないことが祝された幸いな人生であると考えるかもしれません。もしかすると、この世は「幸いなるかな、争いのまったくない人は」と教えることがあるかもしれません。事実、私たちがマタイの福音書５：９のみことばを見たときに、それが聖書的な真理だと正当化できるかもしれません。そこには**「平和をつくる者は幸いです。」**とありました。けれども、イエスが「幸いな人は争いのまったくない人だ」と言われるでしょうか？私たちが見ることができる結論は、そうではないということです。事実、その正反対を見ることができます。イエスは、私たちに対して義によってもたらされる私たちの生涯における様々な困難、様々な問題、様々な争いというのは、それこそがまさに祝福された人の特徴であると言われます。いったいなぜ、平和をつくる者という特徴をもっている人物が同時に迫害されるのでしょう？なぜ、このような迫害を受けている人物が幸いだとイエスは言われるのでしょう？もしかすると、このことを私たちが見たとき、それは相反する矛盾した事柄ではないかと考えるかもしれません。けれども、私たちはここでイエスが言わんとされていること、この至福の教えの最後にイエスが語ろうとすることをしっかり理解するなら、私たちはこの矛盾に見える事柄を解決することができます。
　今朝、皆さんといっしょに、至福の教えの第８番目であり、そして、最後の教えである５：１０のことばを考えて行きたいと願っています。そして、そこを通して私たちは、天国に属する者がもっている非常に大切な、また同時に、ショッキングな特徴というのを私たちが実際にもって生きて行くことがいかに大切であるのかということを考えて行きたいと思います。事実、この特徴が余りにも重要であるゆえに、私はここに書かれていることが、皆さんの救いが本物であるのか、それとも、偽りであるのかをはっきりと判断することができるテストであると断言しても過言ではないように思います。この学びを通して、私たちは自らの信仰をもう一度吟味したいと思います。私たちが確かに主によって救われた者であることを確信し、そして、それがいかに主の前に祝された状態であるのかということをよく理解することができるように、この８番目の至福の教えを見て行きしょう。
　イエスはこのように言われています。マタイ５：１０**「義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。」**、まさに、山上の説教の冒頭部分でイエスが教えられた至福の教えのクライマックスが、ここで語られたのです。これまでの七つの教えと違って、イエスはここである特別なことをなさっています。これまでの七つは、イエスは一貫して天国に属する者がもっているべき態度、また、その行動を教えてきました。心の貧しさ、悲しみ、柔和さ、義への飢え渇き、あわれみ、心のきよさ、そして、平和をつくるという、そのような態度や行動です。けれども、この８番目にやって来たときイエスは、クリスチャンである私たちが、天の御国に属する者である私たちがもつべき態度や特徴ではなく、そのような態度や特徴をもっているゆえに受ける事柄、その結果について話をしています。けれども、他の至福の教えと同じように、その私たちが受けるべきことというのは、天国に属ずる者であるなら必ず、その生涯に見出すものであるとイエスは言われるのです。
　ここでイエスが言われていることは、もしかすると、これまで見てきた他の七つのこと以上に、私たちに衝撃を与える宣言かもしれません。いったいだれが考えるでしょう？迫害されている人が幸いだと…。けれども、イエスはここではっきりとイエスご自身が、神である方がこの人は幸いだというときに、そこには迫害を受けているということが含まれるというのです。私たちがこの最後の至福の教えを見て行くに当たって、いつもと同じように二つの事柄を見て行きたいと思います。
１）天国に属する本当の信者というのはいったいどのような特徴をもっているのか？
２）なぜ、このような祝福をこの人は得ているのか？
これらを通して、この「迫害されている者が幸いである」という、イエスが語られたことばを理解して行きたいと思います。
☆天国民の特徴
８．義のために迫害されている

１）どのような特徴をもっているのか

迫害に満ちている人生は真の信徒、真の天国民の特徴であるとイエスは言われます。このことを詳しく説明することは必要ないのかもしれません。なぜなら、イエスのことばを見るとそのことははっきり書かれているからです。イエスは**「迫害されている者は幸いです」**と言います。私たちが「迫害される」ということを考えるに当たって、しっかり理解しておかなければいけないことがあります。ありとあらゆる迫害のことをイエスは言っておられるのでしょか？私たちはいろいろな事柄によって迫害が起こることを知っています。人との間に困難が起こること、人から蔑まれ嘲笑され怒りの対象となり、いろいろな原因で嘆き悲しむことがあることを知っています。あらゆる原因で私たちが迫害されるなら、その迫害によって私たちは神から幸いな者と言われるのでしょうか？そうではないです。イエスは、何が私たちに幸いをもたらすのかを定義、限定されています。イエスは言われます、**「義のために迫害されている者は幸いです。」**と。この**「義のために」**ということばは私たち自身の愚かさにゆえにもたらされる様々な困難や、様々な迫害をこの祝福から除きます。私たちはいろいろなところで愚かであるゆえに、必要のないことを、必要のない人たちに向かって必要のないときに語ろうとするのです。それによって、私たちはまったく必要のない本来与えられなくてもよい迫害、困難を生み出すことがあります。それがたとえどれほど聖書に基いたことであったとしても…。それは、まるで、私たちが一生懸命問題を見つけるために、人と言い争うために生きようとしているかのようです。イエスはそのような迫害を受けている人が幸いだとは言われていません。イエスは**「義のために迫害されている者は幸いです。」**と言われているのです。自分の愚かさ、自分の罪のゆえにもたらしたものではないのです。

また、私たちは**「迫害されている者は幸いです」**ということばを聞くと、すぐに宣教師たちのことを思い浮かべます。伝道して行くときに迫害を受ける、もし、私たちがそれがここで言われていることだと考えるなら、この箇所を十分に理解しているとは言えません。では、なぜイエスは「伝道のために迫害されている者は幸いです」と言わなかったのでしょう？確かに、伝道する、みことばを語り伝えることは、この**「義のために」**といわれるその**「義」**に含まれることでしょう。でも、もし伝道が義とイコールであるとするなら、私たちはこの箇所を十分に理解していません。なぜなら、ここで言われていることは、伝道する、みことばを伝えるということに限定されたことではないからです。では、いったい何がこの「義のために」に含まれるのかを考えなければいけません。簡単に言えば、この**「義のために」**というのは、天国民が義の生活を実践するがゆえにもたらされるあらゆる迫害を定義しているのです。もちろん、そこには福音を伝えることも含まれるのです。この**「義」**ということばは至福の教えの中にすでに出て来ました。マタイ５：６を見るとそこには**「義に飢え渇いている者は幸いです。」**とあります。この６節で使われている「義」は、いつの日か必ず与えられる神の「義」を念頭において使われています。文脈を見たときにはっきりすることは、この天国に属する人は心の貧しさをもっている、神の前に私は何一つすばらしいものはもっていない、まったく破産した状態であることをよく理解し、その状況をもたらしたのは自分の罪であることを知っているゆえに、その人は悲しみ、神から何一つ良いものを受ける価値がない者であるとへりくだるがゆえに、柔和な人、そして、神がもっておられる義に飢え渇いていました。自分の汚れを知っているからです。だから、ここで言われているのは、まだもっていない完全な義のことです。神がいつの日か与えてくださる完全な義です。けれども、その「義」と１０節で言われている「義」とは違います。**「義に飢え渇いている」**ということばが表わすことはその「義」を自分はもっていないということです。だから、**「義に飢え渇いている」**のです。それを求めて止まないのです。

けれども、この１０節で言われている「義」はどのような「義」でしょう？**「義のために迫害されている者」**と言います。ちなみに、この人は今この時点で迫害されているでしょうか？迫害を受けています。迫害がもうすでに起こっているのです。そうすると、**「義のために迫害」**が起こっているというのはその人がもっている「義」です。イエスが言われているのは、私たちが何か理想的なものを一生懸命追い求めているからそこで迫害が起こると、そういうことではなく、あなたが今生きているその「義」があなたに迫害をもたらすということです。このことを知ることは、非常に大切な二つの事柄を私たちに教えます。

◎イエスのこの宣言**「義のために迫害されている者は幸いです」**によってはっきりされたこと

（１）天国に属する者から義の生活を切り離すことはできない、義の生活が付随してくる。

（２）そのような義の生活を行なうときに、そこには必ず迫害がもたらされる。

（１）天国に属する者から義の生活を切り離すことはできない

天国民の特徴は迫害を受ける生涯を送っているということです。義の生涯が原因で迫害が起こるのですが、義の生涯は天国民に必ず付随するものだと言います。確かに、救いというのは神の恵みのゆえに信仰によってもたらされます。私たちの行ないはそこにいっさい関係ありません。私が何をしようとも神は私がしたことで義と認められることはありません。けれども、私たちが恵みのゆえに信仰によって

救いを得たなら、その人たちは必ず神が私たちに求めることをぜひ実践して行きたいという願望に駆られて生きるようになります。なぜなら、私たちは神の子どもになったから、今までの生活から決別して神に喜ばれる人生を歩んで行こうと願う者に変えられたからです。別の言い方をするなら、救いから義の生活を切り離すことはできないのです。先ほど説明したように、この１０節がそのことを教えるだけでなく、私たちはこのことをイエスが語られたこの山上の説教全体から見て行くことができます。

たとえばイエスは、この至福の教えが終わった直後、１３－１６節で天国に属する者がもっている責任を教えるのです。そこでイエスが言われることは、あなたがたはこのような特徴をもったものだから、そのように生きていなさいです。**「あなたがたは、地の塩です。」**、**「あなたがたは、世界の光です。」**と言います。そして、**「もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょう。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。」**、また、**「また、あかりをつけて、それを枡の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。」**とイエスは言われます。だから、地の塩としてその役割を果たしなさい、世の光としてその役割を十分に発揮しなさいというのです。あなたがそのような者に変えられたのなら、その通りに生きて行きなさいと言うのです。また、それだけではありません。５章の後半部分を見て行くと、イエスは律法学者が教えていたことに反論をして行きます。そうではないということを証明して行きます。そして、その最後に４８節**「だから、あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。」**と言われました。それを通して人々に、単にあなたが旧約聖書の教えは正しいですと告白するだけでなく、実際にそれを全うして生きることが求められることを教えるのです。６章にはいってもその教えは変わりません。イエスはパリサイ人や偽善者たちが行なう偽善的な行為に対して、それが間違っていることを明確にして行きます。その中でイエスは**「人に見せるために人前で善行をしないように気をつけなさい。そうでないと、天におられるあなたがたの父から、報いが受けられません。」**（６：１）神の前に正しいことを行なって行きなさいと言われます。神の前に「義」を実践して行きなさいとイエスはそのように求めるのです。

７章にはいると、私たちは自分の心が痛むことに気付きます。なぜなら、そこで言われていることは非常に厳しいからです。７：１５－２０でイエスは偽預言者たちを見分ける方法が何かを教えておられます。**「にせ預言者たちに気をつけなさい。彼らは羊のなりをしてやって来るが、うちは貪欲な狼です。:16 あなたがたは、実によって彼らを見分けることができます。ぶどうは、いばらからは取れないし、いちじくは、あざみから取れるわけがないでしょう。:17 同様に、良い木はみな良い実を結ぶが、悪い木は悪い実を結びます。:18 良い木が悪い実をならせることはできないし、また、悪い木が良い実をならせることもできません。:19 良い実を結ばない木は、みな切り倒されて、火に投げ込まれます。:20 こういうわけで、あなたがたは、実によって彼らを見分けることができるのです。」**、その人たちがどのような生き方をしているのか、その実によって見分けなさいと言われました。たとえ、人がどのようなすばらしい教えをしていたとしても、その人の生き方が神が求める良いことを実際に実らせて生きるものでないなら、その人は偽預言者であると言います。

２１－２３節はどうでしょう？**「わたしに向かって、『主よ、主よ。』と言う者がみな天の御国にはいるのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行なう者がはいるのです。:22 その日には、大ぜいの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言をし、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇蹟をたくさん行なったではありませんか。』:23 しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け。』」**、**「天におられるわたしの父のみこころを行なう者がはいる」**とあります。そして、この山上の説教をまとめるに当たって２４節からこのように言っています。**「だから、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行なう者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができます。:25 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけたが、それでも倒れませんでした。岩の上に建てられていたからです。」**、みことばを聞いてそれを行なう者は**「賢い人」**だと言います。２６節にはその反対が書かれています。**「また、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行なわない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができます。:27 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもそれはひどい倒れ方でした。」**と、愚かな者だと言われるのです。イエスだけではありません。新約聖書はそのような教えに満ちています。パウロはローマ６：２でこのように言っています。**「…罪に対して死んだ私たちが、どうして、なおもその中に生きていられるでしょう。」**と、生きていることはできません。また、エペソ２：８－１０、皆さんがよくご存じのところですが、**「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。:9 行ないによるのではありません。だれも誇ることのないためです。」**と私たちは恵みのゆえに信仰によって救われるのです。私たちの行ないが私を救うのではありません。そのように福音が何なのかということを明確に述べた後で１０節に続きます。この箇所を引用するときはぜひ９節で切らないようにしてください。パウロは８－１０を続けて語っているのです。残念ながら、新改訳聖書ではこのことばが訳されていませんが、１０節の初めに「それゆえに」とか「なぜなら」「それは」ということばを付け加えることができます。**「:10 私たちは神の作品であって、良い行**

ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。」と言います。なぜ、神は私たちを恵みのゆえに信仰によって救ったのでしょう？それは、私たちが神の作品となるためです。神の作品となって**「良い行ない」**を**「キリスト・イエスにあって」**するためです。パウロは続けます。**「神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。」**と、神が求めていることは何でしょう？私たちが**「良い行ない」**に歩むことです。

また、ヨハネはこのように語ります。Ｉヨハネ２：３－６**「もし、私たちが神の命令を守るなら、それによって、私たちは神を知っていることがわかります。:4 神を知っていると言いながら、その命令を守らない者は、偽り者であり、真理はその人のうちにありません。:5 しかし、みことばを守っている者なら、その人のうちには、確かに神の愛が全うされているのです。それによって、私たちが神のうちにいることがわかります。:6 神のうちにとどまっていると言う者は、自分でもキリストが歩まれたように歩まなければなりません。」**と、誤解しないでください。ヨハネはここで、クリスチャンは罪を犯さない完全な人生を歩むと言っているのではありません。そのように聞こえるかもしれませんが、ヨハネがそんなことを言っているのではないことは文脈を見るとよく分かります。この前の文脈、１：７からヨハネが言っていることを見てください。皆さんがよくご存じの１：９には**「もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」**とあり、私たちは罪を犯すと言われています。罪を犯したなら神にその罪を告白しなさい、そうすれば神はその罪を赦してくださるとあります。２章にはいると２：１に**「私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の御前で弁護してくださる方があります。それは、義なるイエス・キリストです。」**、私たちは罪を犯すけれど、私たちには私たちを弁護してくださるイエス・キリストがあると言います。ヨハネがもしここで、私たちが救われたら罪を犯さなくなると言っているとするなら、このようなことを書く必要はありませんでした。でも、私たちは罪を犯します。そして、その罪を犯す私たちの歩みがどのようなものかといったとき、それは神の命令を守ることに傾倒した人生なのです。そのような特徴をもった人生です。ヨハネはこの手紙を、読者たちが確かに永遠のいのちをもっていることを確信するために書きました。そのことがこの手紙の中に実際に記されています。５：１３**「私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。」**と。もし、あなたがほんとうに救いをもっていると確信するなら、また、そのようになるためには、あなたは**「キリストが歩まれたように歩まなければなりません。」**と、そのように神の命令を守って生きる生き方というのは、私たちの主であるイエス・キリストの人生に似たものだとヨハネは言います。

マタイの福音書５章を見ていて、このイエスが教えた至福の教えの最後の部分を見ると、非常に興味深いことに気付きます。イエスは１０節で**「義のために迫害されている者は幸いです。」**と言います。１１節ではそれを別のことばに置き換えます。**「わたしのために、ののしられたり、迫害されたり、また、ありもしないことで悪口雑言を言われたりするとき、あなたがたは幸いです。」**と、イエスは言われます。**「義のために迫害される」**というのは、わたしのために迫害されることと同じだと。天の御国に属する者が生きるその生き方というのは、イエス・キリストが生きたような生き方なのです。その人の人生はイエス・キリストがこの地上で神の義を実践して生きられたのと同じように、この地上で神の義を実践する生き方なのです。それゆえに、この人の人生はイエス・キリストの人生とつながりをもつのです。神はこの世の初めにアダムを創造されました。完璧な人、罪を知らない人として神のもとに居続けることができたその人、神はアダムを**「…人をご自身のかたちに創造された」**（創世記１：２７）のです。アダムは罪を犯しました。それによって人類は罪の中へと落ちて行きました。その中で神は、イスラエルの民を神の選民として選択され、そして、彼らにこのように言われました。**「あなたがたの神、主であるわたしが聖であるから、あなたがたも聖なる者とならなければならない。」**（レビ記１９：２）、イスラエルの民が神の民として生きるために、神はきよくあることを求めたのです。新約聖書でペテロは実に今見たレビ１９：２を引用して、教会に向けて言います。**「あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行ないにおいて聖なるものとされなさい。:16 それは、「わたしが聖であるから、あなたがたも、聖でなければならない。」と書いてあるからです。」**、Ｉペテロ１：１５－１６のみことばです。

神は私たちに求めておられます。神のようになりなさい、わたしに沿って生きなさい、わたしのことばに従って生きなさいと。ダビデはこのように言いました。詩篇２３：１**「主は私の羊飼い。私は、乏しいことがありません。」**と。どのような災い、どのような恐れがそこに起こって来ても、私はこの方を信頼します、その方が導くところに私は常について行きますと。イエスはヨハネ１０：２７で**「わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。」**と教えます。もし、皆さんがイエス・キリストが私の羊飼いですと言うなら、皆さんはイエス・キリストのことばについて行くはずです、その歩みについて行くはずです。黙示録１４：３－４には**「彼らは、御座の**

前と、四つの生き物および長老たちの前とで、新しい歌を歌った。しかし地上から贖われた十四万四千人のほかには、だれもこの歌を学ぶことができなかった。:4 彼らは女によって汚されたことのない人々である。彼らは童貞なのである。彼らは、小羊が行く所には、どこにでもついて行く。彼らは、神および小羊にささげられる初穂として、人々の中から贖われたのである。」とあります。十四万四千人の救われた民は**「小羊が行く所には、どこにでもついて行く」**のです。旧約の時代においても、新約の時代においても、そして、これからやって来る患難時代においても、神の民として神の御国に属する者となった者たちは、イエス・キリストのことばについて行くのです。イエス・キリストが行かれるところにいっしょに出て行くのです。どこにでもついて行くのです。福音書を見ていて最近気付いたことがあります。イエスは「信仰を告白しなさい」とは言っておられません。イエスは「信じなさい」と言われます。そのことばは完全にゆだねることを指しています。完全に信頼を置くことを指しています。ヨハネの福音書ではこの「信じる」ということばが「お任せになる」と訳されているところがあります。そして、イエスはいつも「従いなさい」と言われます。

大宣教命令、弟子としなさいと、どのようにするのでしょう？人々が父と子と聖霊という三位一体の神と私は関係をもった者ですと告白すること、すなわち、バプテスマを授けなさい、そして、彼らがわたしが教えたことをすべて守ることができるように、あなたが教えなさいと言うのです。義の生涯と救いは別のものであるとどうして分けることができるでしょう？救われた人は神の民、神の羊です。その羊は神が連れて行くところに従順について行きます。迷うことはあります、私たちは愚かだから…。目の前に草があるとその草にしか目が行かなくて、どんどん群から外れてしまうことだってあります。でも、羊飼いがやって来てもう一度私たちをその群に戻してくれるときに、私たちは羊飼いの声に耳を傾けてその方に従って行くのです。義の生涯というのは天の御国に属する者にとってオプションではありません。やってもやらなくてもいいものではないのです。義の生涯というのは救いをもたらす本当の信仰の当然の結果です。それは私たちのうちに働く聖霊の働きの証明です。聖霊は私たちを変え、私たちが神に喜ばれる生き方をしたいと願わせ、その実践を助けるからです。天の御国に属する者は義の生涯を実践します。それを切り離すことができないのです。そして、イエスは言われます。そのような義の生涯を送るなら、あなたには迫害が待っていると…。２番目にはっきりしたことはこれでした。

（２）義の生涯は迫害をもたらす

迫害を受けるすべての人が幸いなのではありません。けれども、義のために迫害を受ける人は幸いなのです。これはもしかすると、私たちに新しい疑問を抱かせるかもしれません。どうして義によって迫害がもたらされるのかと…。ある人たちはそんなことはあり得ないと否定することがあります。けれども、神ははっきりこのように言われます。イザヤ５１：７に**「義を知る者、心にわたしのおしえを持つ民よ。わたしに聞け。人のそしりを恐れるな。彼らののしりにくじけるな。」**と、何が前提になっているでしょう？義を知っているならそこには迫害がある、だから、それが起こっても恐れてはいけないし、くじけてもいけないと言います。私たちは義の生涯を実践して行くときに、人々から不当な扱いを受けることを予期しておかなければいけないと言うのです。新約聖書もそのような警告に満ちています。パウロはⅡテモテ３：１２でこのように言います。**「確かに、キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。」**と。ピリピ１：２９では**「あなたがたは、キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜わったのです。」**とあります。忘れないでください。皆さんが、私は救われました、神さまどうもありがとうございますと感謝するそのギフトには、もう一つ同封されているものがあるのです。それはキリストのために受ける苦しみです。二つが一つになってパッケージとなってくるのです。パウロはそのように言います。もし、皆さんが苦しみはいらないというなら、救いも得ることはできません。一つだけ取ってもう一つは要りませんとは言えないのです。パウロはさらに言います。ガラテヤ４：２９**「しかし、かつて肉によって生まれた者が、御霊によって生まれた者を迫害したように、今もそのとおりです。」**、昔からずっと、罪の中にある者たちは新しく生まれ神のものとされた者たちを迫害して来ました。今もその通りだ、何一つ変わっていないと言います。イエスご自身も弟子たちに言いました。ヨハネ１５：１８－２０**「もし世があなたがたを憎むなら、世はあなたがたよりもわたしを先に憎んだことを知っておきなさい。19 もしあなたがたがこの世のものであったなら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではなく、かえってわたしが世からあなたがたを選び出したのです。それで世はあなたがたを憎むのです。:20 しもべはその主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害します。もし彼らがわたしのことばを守ったなら、あなたがたのことばをも守ります。」**と、あなたがたは世のものではないから世はあなたがたを憎むと言われていたのです。

◎<u>いったいなぜ、このような迫害が起こるのでしょう？</u>

イエスはその理由をこのように言われています。ヨハネ：１９－２０**「そのさばきというのは、こうであ**

る。光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行ないが悪かったからである。:20 悪いことをする者は光を憎み、その行ないが明るみに出されることを恐れて、光のほうに来ない。」、世の中はその行ないが悪いから闇の中にいるのです。悪を実践するものだから、そこに光がやって来てその悪を明らかにするときに、人々はその光を憎むのです。自分の悪がさらけ出されるからです。イエスがされたことはまさにそうです。そして、イエスの義を実践するゆえに、世の光としてこの地上を生きる天国民は、同じようにこの世から迫害されるのです。なぜ、義を行なう者は迫害されるのでしょう？マッカーサー先生はこのように言っておられます。「義というのは常に人々に対立を引き起こす。そして、その義がたとえたくさんのことばをもって説明されることがなかったとしても、その余りにも明らかな対比のゆえに、不法に対して対立する。」と。前世紀イギリス最大の説教者と言われたロイド・ジョーンズ博士は、このことに関してこのように語っています。「なぜ義人はこの世で迫害されるのか。特に、善良な人や気高い人よりも義人が迫害されるのはなぜだろうか？答えは極めて単純である。善良で気高い人が滅多に迫害されないのは、彼らこそ自分たちの到達するべき最高の姿なのだという感じをだれもが抱くからである。私たちは私でもその気になりさえすれば、あのようにできると思う。こうして彼らを称賛する。なぜなら、そうすることが自分自身にも敬意を払うことになるからだ。だから、義人が迫害されるのは、義人に人と違ったところがあるからだ。それがパリサイ人と律法学者が主イエスを憎んだ理由である。主イエスが善良であったからではなかった。主イエスが彼らと違っていたからである。主イエスの身辺には彼らに罪を宣告する何かがあった。彼らは自分たちの義がことごとく安っぽくされて行くのを感じた。彼らはそれを嫌ったのである。義人は何も言わないかもしれない。義人はことばでは人々に罪を宣告しない。しかし、義人は義人であるというだけのことで、人々に確かに罪を宣告する。人々をみじめな気持ちにさせる。そこで、人々はすっかり打ちしおれてしまう。従って、そのために義人を憎み、義人のあら探しを試みる。」

アベル、彼の生涯は正しいものでした。それゆえに、神に受け入れられるすばらしいささげものをしました。アベルはどうなったでしょう？彼の兄弟カインがその義のゆえに彼を殺しました。ダビデ王はどうですか？なぜサウル王に迫害されたのでしょう？ダビデが神の前に正しかったからです。モーセ、エリヤ、エレミヤ、ダニエル、ペテロ、パウロ、ステパノ、それ以外でも教会の歴史を見て行くかぎり、そこにはたくさんの人物が、彼らの義の人生のゆえにこの世から迫害を受けてきたことを知ることができます。私たちはよく覚えておかなければいけません。神の義というのは、常にこの世からの迫害をもたらすことを。なぜなら、それはこの世と対立するからです。神の義はこの世に対してまったく正反対のことを示すのです。そして、それをもってあなたは有罪であるとこの世を責めるのです。それは単に、私たちがみことばを語るときに起こるだけではありません。私たちが義の生涯を実践するときにそこには義が証されるのです。マッカーサー先生はこのように言っています。「迫害というのはもっとも確かで、もっとも具体的な救いの証明である。迫害というのは敬虔な従順なクリスチャンが生きているときに偶然に起こるものではなく、それは必然であるから。」と。Ｄ・Ａ・カーソンというマタイの福音書の権威者と言われている神学者はこのように言っています。さらに厳しいことばです。「この最後の至福の教えというのは、私たちにとって最も私たちを探るテストになる。なぜなら、もし、イエス・キリストの弟子が一度たりともどのような迫害も経験しないとするなら、彼の生涯には義というものがどこにも現わされていないと疑うべきだ。もし、このように義がどこにもなく、神のみこころに沿う生涯というのがその人のうちに見られないなら、いったいどのようにしてその人は神の御国にはいることができるのだろうか？」と。先ほど読んだロイド・ジョーンズ博士はこんなことを言います。「この至福の教えは、私たちがクリスチャンとはどのような者であるのかという考え方のテストをする。クリスチャンとはその人の主に似た者であり、そのことを主は私たちにこう告げる。」と彼はルカ６：２６を引用します。「**「みなの人にほめられるときは、あなたがたは哀れな者です。彼らの先祖は、にせ預言者たちをそのように扱ったからです。」**、そして、そのようにイエスが言っているにもかかわらず、私たちが完璧なクリスチャンと考える人物というのは、ほとんど常に優しく人々から敬われ人気者であり、だれ一人として責め立てることがなく、いつでもいっしょにいたいと願うような人物である。けれども、もし、この山上の説教の教えが正しいとするなら、それは本当のクリスチャンの姿ではない。なぜなら、本当のクリスチャンはこの世から賞賛を受ける人物ではないから。この世は私たちの主を称賛しなかった。そして、その主に似た人物をこの世は決して称賛することはない。」と。

皆さん、どうでしょう？この場で私は皆さんの救いを疑おうとしているのではありません。誤解しないでください。神と皆さんが関係をもっているなら、皆さんが確かに神の御国に属しているなら、皆さんには義の生涯があるはずです。そのようにみことばは教えるからです。ほんのわずかかもしれません。でも、その道に歩んで行こうとする強い思いのもと、私たちは日々変わって行っているはずなのです。そのようにみことばは教えるから。そして、そのような人生を私たちが送るなら、イエスは約束します、

あなたには迫害が起こると…。人々はあなたのことをいやに思い、あなたに対していやなことをしようと考え、何とかあなたが義の生活をすることがないように、それによって自分の罪が明らかにされることがないようにと努力します。けれども、クリスチャンはそのような中にあって、それをもって私は確かに主の者であるという確信をもつことができるのです。

真のクリスチャン、本当に天国に属する人は義の生涯を送る人です。その人には幸いがあるとイエスは言います。その理由が後半部分に書かれていました。

２）この祝福の原因、なぜこの人はこのような祝福を得ているのか？

「天の御国はその人のものだからです。」。イエスは３節と１０節でこのことばを同じように使います。なぜなら、この至福の教えというのは天に御国にある人がいかに幸いなのかということを教えるためのものだったからです。確かに、この地上に生きている上で、私たちには辛いこと悲しいことがたくさんあるかもしれません。けれども、イエスは言われるのです。あなたが本当に天の御国に属しているなら、そのような中にあってもあなたには幸いがあると。もう一つ誤解しないでください。私が皆さんにお伝えしたいこと、また、イエスが伝えていることは、皆さんが迫害されるようになりなさいということではありません。世の中の異端にはこのように言う人たちがいます、迫害を受けたら喜びなさいと。私たちの目標は迫害を受けることではありません。イエスはそんなことを一言も言われていません。私たちの目標は、義の生涯を送ることです。義のゆえに迫害を受けるときに私たちは幸いなのです。なぜなら、私たちはイエス・キリストが歩んだようにこの地上を歩んでいるからです。私たちの目標は「どうぞ皆さん、私を迫害してください」ではなくて、「神さま、どうぞ、私があなたに似た者としてこの地上での人生を全うすることができるようにしてください」というものです。それをして行くときに、この地上においては残念ながら、私たちの周りには迫害があります。イエスを人々が迫害したように、イエスに似た者を人々は迫害するからです。でも、それは私たちに一つのことを保証します。天の御国に属しているということを…。５：１２を見るとイエスはこのように言われています。**「喜びなさい。喜びおどりなさい。天においてあなたがたの報いは大きいのだから。あなたがたより前に来た預言者たちも、そのように迫害されました。」**と。確かに、皆さんの人生には様々な迫害があるでしょう。なぜなら、皆さんも義の人生を送ろうとしておられるから。そのときに、どうぞ思い出してください。それは私の主の前に従順である人生がもたらす当然の結果であり、私はそのことによって神からの祝福を豊かに受けていることを知ることができると。この地上では苦しみが待っているかもしれません。けれども、天においては永遠に皆さんには祝福が待っています。